

# ニューゼalandスルメイカ・オーストラリアスルメイカ ニューゼaland海域

Wellington Flying Squid, *Nototodarus sloanii* & Gould's Flying Squid, *Nototodarus gouldi*



ニューゼalandスルメイカ



オーストラリアスルメイカ

## 管理・関係機関

ニューゼaland政府

## 最近一年間の動き

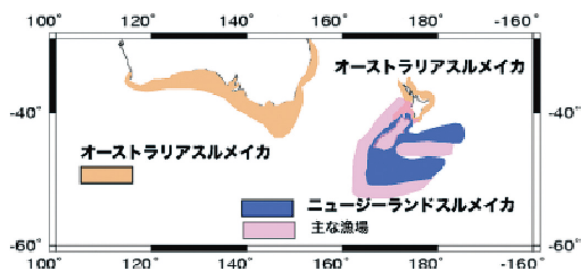
当海域で 2012 年に 2 隻の我が国いか釣り漁船が操業し、漁獲量は前年より多い 1,787 トンで、昨年度に引き続き漁獲量、CPUE (トン/日) とともに増加が認められた。資源量水準は、1987 ~ 2010 年の我が国いか釣り漁船の CPUE データから判断すると、2012 年は高位の状態であると考えられる。

## 生物学的特性

- 寿命: 1 歳
- 成熟開始年齢: 約 6 ~ 8 か月
- 産卵期・産卵場: 周年; 主に冬、ニューゼaland南島南岸及び東岸の陸棚上 (ニューゼalandスルメイカ)、南北両島間の西岸陸棚上 (オーストラリアスルメイカ)
- 索餌場: 陸棚上
- 食性: 中深層性魚類、おきあみ類、いわし類
- 捕食者: 海鳥類、あざらし、さめ類等

## 利用・用途

するめ、いかめし、刺身 (塩辛を除く、日本のスルメイカと同様な加工原料)



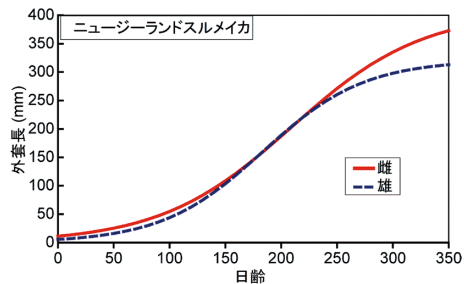
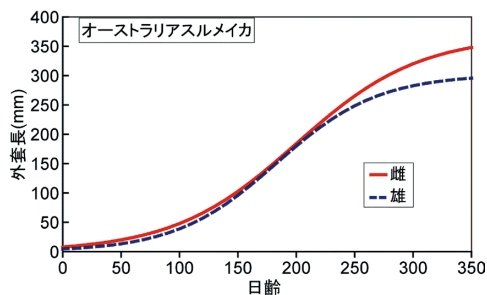
本資源の分布図 (Martin *et al.* 1985 を改変)

## 漁業の特徴

ニューゼaland海域で漁獲されるスルメイカ類の総称“ニューゼalandスルメ”はニューゼalandスルメイカとオーストラリアスルメイカの 2 種を含む。NZ スルメ類は 1960 年代までは未開発であったが、1970 年代から我が国による開発が進み、1980 年には、釣りトロール両漁法を合わせた我が国の総漁獲量は 6 万トンを超えるようになった。本資源は、韓国、ロシア (旧ソ連)、ウクライナ、台湾等も漁獲している。しかしながら、1990 年代以降、同国政府の規制強化等により、最近年では外国船の入漁は減少している。

## 漁獲の動向

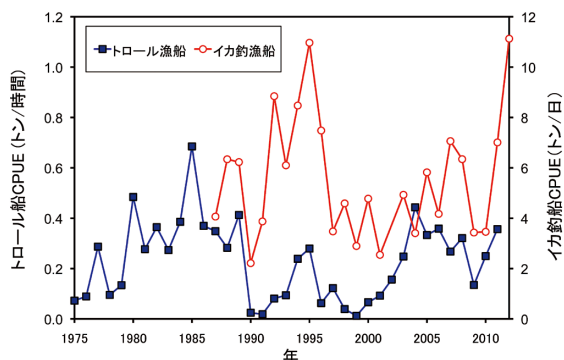
NZ スルメイカ類は 1970 年代に我が国により開発されて以降、1980 年代には総漁獲量は 8 万トン前後で推移し、その 6 ~ 7 割を我が国の漁獲が占めていた。しかし、1990 年代以降はニューゼaland政府の規制強化等により、外国船の漁獲量は減少 (我が国の漁獲は 2 割以下に減少) し、ニューゼalandの漁獲が増加している。1990 年代以降総漁獲量の年変動は大きく、2004 年には 14 万トンに達したものの、それ以降は減少していた。



ニューゼalandスルメイカ (上) 及びオーストラリアスルメイカ (下) の成長 (Uozumi *et al.* 1995 より)

資源状態

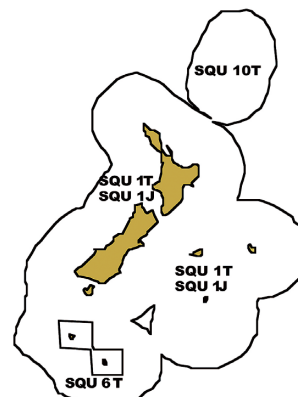
いか釣り船の CPUE で見る限り最近の 10 年間は各漁船 1 日あたり 3 ~ 11 トン前後 (平均 5.7 トン) であり、漁獲成績報告集計による 2011 年の CPUE は 7.0 トン/日で高い値であった。1987 年から 2010 年までの我が国いか釣り漁船の CPUE データを見て、最大値 (1995 年) の 11.0 トン/日と最小値 (1990 年) の 2.2 トン/日の間を 3 分割して上から高位 (8.0 トン/日以上)、中位 (CPUE が 5.1 トン/日から 8.0 トン/日)、低位 (CPUE が 5.1 トン/日以下) という基準で評価すると、2012 年の資源水準は高位であると判断できる。日本のトロール漁船の CPUE で見ると 2005 年をピークに減少傾向であったが、2009 年から増加傾向にある。また、日本のいか釣り漁船の CPUE 速報値で見ても、2012 年漁期には 1987 年以降で最高の値であり、3 年連続で増加傾向であることから、本種の資源水準は増加傾向にあるとみられる。



ニュージーランド海域における日本のトロール船の CPUE (トン/時間) 及びいか釣り船の CPUE (トン/日) の経年変化。2002 年 (2001/2002 年) 漁期にはいか釣り船は出漁しなかった。(酒井・若林 2010、西田・若林 2010 より)

管理方策

ニュージーランド政府は、当初トロール漁業は漁獲量を規制し、いか釣り漁業は努力量 (隻数) を規制した。しかし、同じ資源に対する管理方策の統一を行い、現在ではいか釣り漁業にも漁獲量規制を実施している。現在、本資源は北側の SQU 10T、東西の SQU 1J と SQU 1T 及び南のオークランド諸島の SQU 6T の 4 ストックに個別の TACC (商業漁獲可能量) が決められている。イカ類のような単年性の生物資源では MSY の推定は不可能で必要もなく、また、現状の漁獲規模では将来の加入量や資源量に影響を与えないとの考えから、TACC はここ 10 年間に大きな変化はなく 12.7 万トンである。TACC に基づき配分される個別譲渡可能漁獲割当量 (ITQ) は、DWG (Deepwater Group Limited) が管理する。なお、南部海域のオークランド諸島の SQU 6T ストックは、トロールによるニュージーランドアシカの混獲数の限度を設定している (2010 ~ 2011 年は 58 頭)。



本資源の管理海域

資源管理方策まとめ

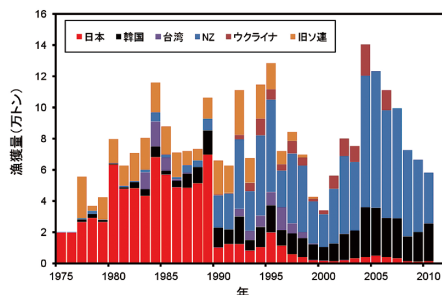
- 4つのストックについて TACC を決定
- ITQ は DWG が管理
- 鯨脚類のトロールによる混獲を規制

資源評価まとめ

- ニュージーランド政府は現在のところ直接的資源評価は実施していない
- 資源水準は中位で減少傾向

ニュージーランドスルメイカ類 (ニュージーランド海域) の資源の現況 (要約表)

|                   |  |
|-------------------|--|
| 資源水準              | 高 位  |
| 資源動向              | 増 加  |
| 世界の漁獲量 (最近 5 年間)  | 5.8 ~ 11.1 万トン<br>平均: 8.2 万トン (2006 ~ 2010 年)    |
| 我が国の漁獲量 (最近 5 年間) | 1,033 ~ 4,757 トン<br>平均: 2,158 トン (2006 ~ 2010 年) |



本資源の国別漁獲量

(データは FAO 2010、ただし、2010 は全国沖合いかつり漁業協会の操業状況週報及び南方トロールデータの集計による漁獲量。また、2010 年及び 2011 年のニュージーランドの漁獲量は Ministry of Fishery of New Zealand. 2010 より)